



国際的に活躍する専修人を紹介する「Globali専修tion(グローバル「専」ジョン)」。2回目は国際会計事務所に勤める佐藤大知さんに登場いただく。

KPMG税理士法人 グローバルモビリティサービス 米国税理士

佐藤 大知さん(平28経済) DAICHI SATO



「専門性プラスアルファ」を追求

—英語に興味を持ったきっかけは。

Jリーグのクラブユースを経て、高校は強豪校のスポーツ特待生としてサッカー部に所属し、英語とは無縁の生活を送っていました。高3でプロへの道を断念した時、自分からサッカーを取ったら何が残るだろうかと考え、新しいことにチャレンジしようと決めました。どんな道があるかわからないながら、英語ができれば、専門的な仕事にプラスアルファできるのではないかと漠然と思い、徹底的に英語を勉強しようと決心しました。

—留学への決意と準備について。

「世界を経験したい」と、専大入学前から米国への長期交換留学への挑戦を決めていました。英語は独学と個人指導で基礎からコツコツと積み上げました。TOEFL®対策と情報収集のため、1年次から国際交流センターに通いました。職員の方々が親身に相談に乗ってくれ、時には厳しい指導もしてくれました。留学

準備は能動的に動き、最新の情報を得ることが重要です。在学生の皆さんには積極的に国際交流センターを活用することをお勧めします。

—留学で印象的だったことを教えてください。

3年次の春から約10カ月、米国オレゴン大学に長期交換留学しました。最初の2カ月は大学付属の語学学校で英語スキルを学びます。その後は大学で、さまざまな専門科目を履修しました。ジャーナリズムやビジネス、さらには日本史も。英語で幕末の講義を受けるのは新鮮な感覚で、これまでとは違う角度から学ぶことができました。

勉強以外では得意なサッカーを生かし、チームに助っ人として参加し、現地の学生との交流が広がりました。留学は人生の財産。今でも世界中の友人とつながっています。

—帰国後はすぐに就職活動が始まりましたね。

正直、自分が何をしたいのかわかりませんでした。英語には自信がありました。最終的に国際会計事務所に決めたのは、「英語」プラス「専門性を身につける」という、自分の目標に近づけると思ったからです。

最初は厳しかったですが、誰にも負けたくないと必死で勉強し、3年目の冬に米国税理士の資格を取得することができました。入社5年目の現在、グローバル企業の税務のサポートを行っています。できることは増えましたが、わからないことも尽きません。例えば、コロナの影響について、どのようにクライアントに対応・サポートをするかなど、新しい課題も次々生まれ、日々格闘しています。

—佐藤さんにとって「英語」とは。

人生を豊かにし、周りの人々の大きな力になれる可能性を秘めたコミュニケーションツールの一つだと思っています。英語を学んだことで、世界や視野が広がりました。大学入学前に描いていた「専門性プラスアルファ」を実現することができました。

専大生へのメッセージ

Don't stop thinking.

英語の個人指導をしてくれた恩師に、留学に出発する時に言われた言葉です。壁にぶち当たっても、思考停止するな、と。

誰しも、難しい局面に陥ると諦めてしまいそうになる時があるかと思いますが、踏ん張って考え続けてください。考えて最善を求め続けること。それが大事だと思っています。



初優勝を果たした南瀬谷ライオンズ

南瀬谷ライオンズの内、選手たちは良く戦った。三喜男監督は「コロナ禍のうえ、暑い日が続いてきた。選手たちをたたえた。渡邊翔壘主将(6年生)も「相手に点を与えなければ勝てる」と思って戦った。結果が出て本当によい」と喜びを語った。

地域とともに

スポーツを通じて神奈川県内の子どもたちの健全育成を支援する「2021専修大学カップ神奈川県学童軟式野球選手権大会(神奈川県野球連盟共催)」が7月31日から8月6日まで、県内の4球場で開催され、各地区の代表54チームが熱戦を繰り広げた。2年ぶり15回目となった大会は、開閉会式の簡素化など、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を実施。6日に行われた決勝戦では、南瀬谷ライオンズ(横浜市瀬谷区代表)が元石川サンダーボルト(横浜市青葉区代表)を6-1で破り初優勝、15代目王者に輝いた。

第15代王者に南瀬谷ライオンズ

2021専修大学カップ

コロナ対策実施し2年ぶりに開催

決勝戦	南瀬谷	1	0	4	1	0	0	0	6
	元石川	0	1	0	0	0	0	0	1



優勝チームには、大会会長の佐々木重人学長から賞状、優勝旗、優勝力

準優勝の元石川サンダーボルト



盾、横浜DENABEISタースから優勝カップが贈られた。また、優秀選手賞は南瀬谷ライオンズの中村知景選手(6年生)、敢闘賞は元石川サンダーボルトの横川蒼空

閉会式で佐々木学長から優勝旗を授与

優勝チームは、8月23日にtvkの昼のワイド番組「猫のひたいほどワイド」に出演し、喜びを語った。また熱戦の様子は、29日にtvkで特別番組として放送された。開閉会式の司会は、笹村朱里さん(ネット情報4)が務めた。

主将(6年生)が受賞。入賞チームには、監督・コーチを含めた全員に記念品のメダルが授与された。佐々木大会会長は「昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、関係者の方々や、保護者ならびに監督・コーチの皆さんに厚くお礼を申し上げる」と話した。

開閉会式で司会を務めた笹村さん 本日に申し訳なく思っていた。今大会で改めて選手の皆さんのプレーを見て、レベルの高さに驚くと同時に、私たちがそのような大会を主催できることに誇りを感じた。また、競技運営や感染対策に心を砕いた多くの大会関係者の方々や、保護者ならびに監督・コーチの皆さんに厚くお礼を申し上げる」と話した。

